地域プラス

襲われた女性 恐怖語る

比叡山山中でクマと遭遇、負傷

体固まり「死ぬかも」

「まさかクマが出るとは」「死ぬかもしれないと思った」―。8月中旬に比叡山の山中（京都市左京区修学院）でツキノワグマに襲われ、腕や顔などを負傷した市内の50代女性がこのほど、京都新聞社の取材に応じた。府内でクマによる人的被害は本年度初めて。生々しい傷が今も残る中、女性は緊迫の状況を振り返った。（堤冬樹）

女性がクマに襲われた比叡山山中の現場付近。女性にとっては初めて行く場所だった

女性は山中を走るトレイルランナー。8月11日朝から、市内を囲むトレッキングコース「京都一周トレイル」の東山コースを1人で北へ縦走していた。

暗くならないうちに帰るため、ケーブル比叡駅（地図❶）付近で折り返した。だが午後3時過ぎ、修学院の登山道・雲母坂に向かう途中で事態が暗転する。

往路の東山コースと違う道で行こうと、過去のトレラン大会でも走ったルートを選んだ。やがて分岐に差しかかり、女性にとって初めての道へ。ふと気づくと、わずか5㍍ほど先にクマの親子がいた（地図❷）。立ち上がった親グマは約1㍍50㌢。「とにかくびっくりして体が固まってしまった。死ぬかもしれないと思った」と絶望感が押し寄せた。

クマが逃げ出してくれたら…。わずかな望みを託して大声を上げたが、ひるむ様子は見られない。一気に距離を詰められ、左手の親指をかまれた。

女性は無意識のうちにしゃがみ込み、両腕で頭や首を守るような姿勢に。クマに覆いかぶさられ、左腕や右耳付近にも傷を負った。

少ししてクマが離れた隙に女性はその場から引き返し、別ルートを走って下った。痛みに耐え、「助けて！」「誰かいませんか」と声を張り上げながら。指や耳がちゃんと付いているか心配だったが無事で、東山コースまでたどり着いて110番した（地図❸）。

この女性の叫び声を聞いたのが、近くの東山コースを登っていた鎌田東一さん（72）―左京区―だった（地図❹）。比叡山には800回以上訪れているが、助けを求める声を耳にするのは初めて。「最初は冗談だと思ったが切実感があった」

声のした尾根の方へ向かい、約15分後、東山コース上にいる女性を発見（地図❺）。「青ざめた表情で血も流れていたが、話をしている間に少し安心された様子だった」と振り返り、女性も「人と会えたことでほっとした」と語る。

警察や消防とやりとりし、発生から1時間半近くたった午後4時半ごろ、梅谷林道で消防隊員らと合流した（地図❻）。

その後、近くの病院で左手の親指や左腕、右耳付近を縫った。2週間以上たっても痛みは残り、腕の傷口はうんでいて通院を続けているという。

◇

クマの生態について、京都市動物園の坂本英房園長は「臆病な動物で耳や鼻がとてもいいので、通常はクマの方が人に気付いて回避する。今回は不意に出合って防御反応が出たとみられ、子グマを守ろうとして余計に神経質だった可能性がある」と指摘。「クマの爪は長く鋭いし、骨をかみ砕くほどの力もある。もっとひどいけがを負っていてもおかしくなかった」

女性はトレラン歴10年で比叡山にはたびたび足を運んできた。シカやイノシシを目撃したことはあるが、クマへの意識はなく、鈴なども持っていなかった。

「まだ恐怖心はあるが、この程度の傷で済んで良かった。今後はできる限りメインルートを外れず、山深い所へは複数で行くよう心がけたい」。知人を通じてSNS（共有サイト）でも被害情報を伝えた。

一方、救助に駆け付けた鎌田さんは、東山などの保全活動に取り組む「京都伝統文化の森推進協議会」（事務局・京都市）の会長を務めている。「シカの食害調査や対策は行ってきたが、クマとは出合わないだろうという認識だった。植生の変化や台風による倒木被害などもあり、動物と人間社会の距離感が変わってきているかもしれない」と話し、クマ対策などの周知の必要性を感じている。

今回の事態を受け、府や京都市は、雲母坂の登山口やケーブル比叡駅など10カ所以上に注意看板を設置。府山岳連盟や市などでつくる「京都一周トレイル会」もSNSやホームページで警戒を呼びかけた。

秋の行楽シーズンには、冬眠前のクマが餌を求めて活発に活動するとされる。府農村振興課は「山にはクマがいるものだという心構えが必要になる」と強調。その上で、「人が頻繁に行き来するトレイルのコース上であれば危険性は低いと思われるが、クマよけの鈴やラジオを携帯するなど、人の存在を知らせながら歩いてほしい」としている。

写真多数　デジタルプラス

「動物と人間社会の距離変化」

京都一周トレイルの比叡山の東山コース上に設けられたクマ注意の掲示。府や京都市が10カ所以上に設置した

生息数増加、出没範囲拡大　捕獲数は伸びず

府内では近年、ツキノワグマの生息数が増え、出没範囲も広がっている。府は2021年度に狩猟を19年ぶりに解禁したが、捕獲頭数は伸びていない。

府内のクマは由良川を挟んで西側の丹後個体群と東側の丹波個体群に分けられる。02年度の推定生息数は300頭（丹後120頭、丹波180頭）と低迷。府はレッドデータブックで「絶滅寸前種」に指定し、同年度から狩猟を禁じた。

その後、生息数は回復し、20年度には1640頭（丹後990頭、丹波650頭）に増加。特に京都市を含む丹波個体群は10年近くで2・4倍に急増した。

府内の「クマ出没情報マップ」を見ると、府北中部を中心に、人家近くを含めて目撃が相次いでいることが分かる。今回被害があった比叡山付近でも複数確認できるほか、21年には和束町で初めてクマがおりで捕獲され関係者を驚かせるなど府南部にも分布が広がる。

府農村振興課によると、府内での人的被害は本年度まで4年連続で発生。担当者は「雄グマの行動範囲は100㌔以上。生息数が増え、新しい餌場を求めてこれまでいなかった所に進出している」と指摘する。

こうした中、府は21年度にレッドデータブックでの扱いを「絶滅寸前種」から「要注目種」に3段階下げ、狩猟も解禁した。

だが狩猟による捕獲数は21、22年度とも7頭にとどまる。府猟友会によると、狩猟禁止期間が長かったためクマ専門の猟師がおらず、猟犬の訓練もしていなかったことが大きいという。藤木一美事務局長は「猟師の高齢化も進み、対応できていないのが現状。これ以上クマが増えると、人里に出てくるなど悪影響が大きくなるのでは」とみる。

一方、同課は「丹後、丹波の各個体群の安定した維持には800頭が一つの目安」とし、「人里に出るクマは捕獲せざるを得ないが、シカやイノシシと違って積極的に減らす方針はない。今後のクマの生息調査などを通じて狩猟の影響がどう出るのか見ていきたい」としている。

ツキノワグマ、ここに注意❗

❗山でクマと会わないために
- 入山しようとする地域の出没情報を確認（サイト「クマ目撃情報マップ」など）
- 笛や鈴、ラジオを鳴らして歩く
- クマが活発に行動する朝夕の時間帯は特に注意
- クマの感覚能力が発揮できない霧や風の日、川の近くでは注意する

❗会った時に興奮させないために
- 慌てない、騒がない
- そっと下がる
- 走って逃げない（背中を見せて逃げるのは危険）

❗家の近くにクマを引き寄せないために
- 人家近くの柿など果樹は早めに収穫
- 家の周りに残飯を捨てない
- キャンプ地などではごみや残飯の管理を徹底

（京都府の資料から抜粋）

取材テーマを募集！

京都新聞社は、双方向型報道「読者に応える」に取り組んでいます。読者の身近な疑問や困りごとを基に記者が取材します。取材テーマや情報をお寄せください。

LINEは下記QRコードを読み込んで友だち登録し、やりとりしてください。メールはminna@mb.kyoto-np.co.jp　ファクスは075（252）5454。

友だち追加のしかた
❶LINEアプリをインストール
❷QRコードを読み込む
❸友だちに追加

世界遺産白神の魅力PRサイト

30周年記念し開設

貴重なブナの原生林が広がる「白神山地」（青森、秋田）が国内初の世界自然遺産に登録されて12月で30年となる。年末にかけ、地元ではさまざまな記念イベントが予定されている。こうした情報や白神山地の魅力を紹介するため、青森県は「世界自然遺産登録30周年」の特設サイトを開設した。

白神山地は現在観光シーズンを迎えているが、11月中旬ごろからは降雪のため入山が難しくなる。担当者は「白神の自然に触れて、あらためて世界遺産のすごさを知ってほしい」と話している。

特設サイトでは、環境省や地元市町村、民間団体が行う記念イベントやエコツアー、スタンプラリーなどの情報を紹介。白神の魅力に触れることができる観光スポットやグルメ施設、宿泊施設も掲載している。

秋からの紅葉シーズンには各地でトレッキングツアーが予定されているほか、ブナを使った伝統工芸品「ブナコ」の体験教室、フォトコンテストなどの企画もある。イベントやシンポジウムの予定は今後も決まり次第、順次サイトに掲載する。

「桃太郎」で少年審判体験

名古屋家裁で小中学生

小中学生に向け名古屋家裁が開いた少年審判の体験会＝8月29日午後、名古屋市

鬼にけがをさせ、金品を奪ったとして強盗致傷容疑で家裁送致された17歳の桃太郎が、少年審判を受けたら―。昔話をモチーフに、非公開の少年審判の手続きや更生に向けた処分について知ってもらおうと、名古屋家裁はこのほど、小中学生向けの体験会を開いた。

18人が参加し、裁判官や付添人、家庭環境などを調査する家裁調査官、保護者の「おじいさん」「おばあさん」といった役をそれぞれ担当した。

模擬の審判で、裁判官は桃太郎に「同じ過ちを繰り返さないために何に気を付けるか」などと問いかけ。裁判官から犯行の原因を問われたおばあさんは「夫婦げんかで桃太郎は寂しかった。この子の気持ちに気付いてあげられなかった」と述べた。

最後に全員で、桃太郎の処分を議論した。裁判官を担当した名古屋市の中学1年池田空菜さん（12）は「少年院送致にすべきか迷ったが、保護者の指導も期待できると思い、保護観察の処分が相当と考えた。裁判官の仕事に興味が湧いた」と話した。

少年審判は、家裁送致された20歳未満に過ちを自覚させ、更生させることが目的。家裁は検察官送致（逆送）や少年院送致、保護観察などの処分を決定する。

キャンペーン内容

［ご案内］
●本キャンペーンに参加の福井県内宿泊施設が対象です（キャンペーンホームページをご覧ください）。
●クーポン券は福井県内取り扱い店舗のみ使用可能です。●当日、宿泊施設で身分証明書をご提示ください。
●平日は日曜日～金曜日（9/17、10/8除く）の宿泊となります。
●詳細はキャンペーンホームページをご確認ください。

福井県オリジナルのお得なクーポン特典!!

シニア70お泊まり特典
対象者　70歳以上・平日宿泊（1人1泊：3,000円以上）
1,000円×1枚　宿泊施設でお渡しします
※全国の旅行者対象

家族・グループ特典
対象者　家族・グループ2名以上の宿泊（1人1泊：3,000円以上）
1,000円×2枚　宿泊施設でお渡しします
※タクシー・レンタカー・運転代行で使用可能
※全国の旅行者対象　※家族・グループに1セット／1泊

アンケートに答えて HAPPINESS プレゼントキャンペーン　2024年3/31［日］23:59まで
アンケートに答えて抽選で福井県のグルメギフトカタログをGET!　56名様　詳細はコチラ
さらに　応募者全員の中から　福井県のブランド米「いちほまれ」100kg がもらえるダブルチャンス開催中！

越前・若狭の リニューアル民宿 再発見！
福井県の「民宿リニューアル事業」を利用して、ますます魅力を高めたスペシャルな民宿をラインナップ。今こそ「ふくいdeお得クーポンキャンペーン」でお得にお泊りするチャンス！民宿に宿泊して福井県の秋を堪能しよう。　詳細はコチラ

キャンペーン詳細はwebへ　https://fukui-de-coupon.jp　ふくいdeお得クーポン
※新型コロナウィルス感染や予算の状況により、キャンペーンを停止・変更する場合があります。
お問い合わせ　福井県 / 福井県観光連盟　ふくいdeお得クーポンキャンペーン事務局　【受付時間】9:00～17:00（土日祝を除く）　0776-50-3805
未来のために。―次の世代に選ばれる福井へ―